

七十年前の悲劇

富山県立高岡西高校

三年

野畑

大智

第二次世界大戦、太平洋戦争が終結してか

ら七十年という年月が経ちました。現在、戦

争を経験した人は少なくなってきました。

私がおから聞いた話では、現代の子供は戦争

という言葉は知っていていいでも、内容を説明で

きる子供は少ない、と聞きました。「戦争」

という言葉は知っていますようにあれば、

戦争の本当の恐ろしさを知ることができません

人。肝心なのは内容を知ることだと思えます。

富山県にも空襲があつた事を初めて知つた

のは小学校の高学年の時でした。それまで私

は、富山県には空襲がなかつたのだと思ひ込

んでいました。とても激しい攻撃をうけて、

焼け野原になつたのだと聞きました。

今回のこの記事では、現在空襲の研究を行

っている中山さんの言葉が載せられています。

富山への空襲で母と末妹を失つたと書かれて

います。当然、中山さん以外にも同じ事があ

った人が全国に多くいることとしてしよう。一方、アメリカは記念日の祝賀として攻撃したことが事実なのであれば、この空襲を喜んでいたのではないかと思います。なぜなら、当時の日本はアメリカにと、て敵だ、たからです。もしも、日本がアメリカを攻撃しなければ日本への空襲はなか、たのではないかと考え、た事がある人もいると思います。私は、たとえアメリカを攻撃していなか、たとしても同じ結果にな、た、と考えます。

私にと、て戦争とは、人類を苦しめるための実験、です。戦争に勝ち負けはなく、人々が苦しむだけです。これからの未来で戦争は起きない、という保障は出来ません。第一に、現在も紛争をしている国があります。これららの紛争が大きくなり、戦争が起こ、てしま、て日本も巻き込まれる可能性だ、てあります。その時に同じ過ちを繰り返さないように、次の代、またその次の代へと、戦争し、とは何かを伝えていかなければなら、ないと思ひます。